



サバティ新聞

- 高知河ノ瀬版 -
2021.8月号

こうちの夏本番 よさこい祭り

高知の夏といえば、よさこい!今年の8月は、静かな高知になりそうです。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、よさこい祭りが2回目の中止とされることになりました。不特定多数の人が長時間集まる状況。踊り子さんの安全を確保するために、今年もやむを得ず中止が決定したようです。

その代わり、代替イベントが実施されることとなりました。8月19日と20日の二日間、高知市陸上競技場「りょうまスタジアム」にて、「2021よさこい鳴子踊り特別演舞」が開催されることが決定いたしました。受賞常連チームも出場します。日本舞踊をメインとした美しい踊りの「濱長花神楽」が、出場決定。踊り子さんがなかなか集まらないなか、密を避けての小人数で練習をされていたそうですが、とっても今から楽しみです。

「よさこい」の語源、みなさんご存じでしょうか?

広辞苑には、「夜さり来いの意」と書かれています。これは、「今夜いらっしゃい」という意味だそうです。この語源には諸説が色々あるようですが、山之内一豊が高知城築城の建設の際に、「ヨイショコイ」と掛け声を掛けていたんだとか。この「ヨイショコイ」の言葉が、「江島節」の元となった説が有力だそうです。

徳島県の阿波踊りにも負けないくらい、「もっと面白くて商店街が活気づく」ものをという思いから、このよさこい祭りが企画されました。阿波踊りに負けないようにするためには、鳴子を手に持って踊るスタイルを思いついた作曲家が、鳴子を実際に振りながら音を確認めて作曲したそうです。この作曲家は愛媛県出身の武政英策さんで、作曲した題名は「よさこい鳴子踊り」という題でした。この後に、自身作曲のペギー葉山さんが歌った「南国土佐を後にして」が土佐ブームとなって、映画が製作されました。

よさこい節の歌詞に出る「坊さんかんざし…」のフレーズは、四国八十八か所 霊場第三十一番札所 真言宗竹林寺の実際の僧侶、純信のお話です。道ならぬ恋に走った二人の悲恋の話ですが、二人は添い遂げられず会うことも許されなくなりました。若い二人の情熱的な恋の1コマを、この「よさこい踊り」は宿しています。



七夕

今年も、利用者様にたくさん書いてもらった綺麗な七夕です。短冊を書いていただく時、利用者様とお話をしていましたらやはり、感染に関するお願いが多かったなあと感じます。予防摂取をしても目に見えない恐怖はぬぐえません。また、体調を悪くされておられる利用者様の、回復をお願いする短冊もありました。皆様に書いていただいた短冊を、お写真にてご紹介させていただきます。



8月生まれのご利用者の皆様おめでとうございます！

6日…… 9日……
10日…… 20日……
20日……

見学・体験、随時受付中！

月	火	水	木	金
○	○	○	○	○

・1日型：9:00～17:00

・半日型：9:00～12:15 / 13:30～17:00

どんなご相談でもお気軽にお問い合わせください！

電話 088-837-1081
ファックス 088-837-1082



CAVATY

機能回復リハビリスタジオ サバティ高知

サバティ高知河ノ瀬店

介護保険事業所番号
3970105585

〒780-8034

高知県高知市南河ノ瀬町1-2

<https://www.cavaty.jp/>

